

幼児クラス（3歳児）

活動人数 9名

活動日 令和7年6月18日～
令和7年10月31日

活動時間 10:00-11:30



テーマ

生き物

<テーマの設定理由>

昨年度、他クラスで飼育していたカブトムシに興味を持ち親しんでいたため、今年度は自分達のクラスで飼育することに決めました。テーマを「生き物」とすることでカブトムシ以外の「生き物」にも関心を広げ探求することとしました。

どこで何をする？

<活動スケジュール>

- 6月18,20日 生き物ってなに食べるの!?
- 7月7日 このゼリー、何味?
- 8月28日 ぼくたちと同じ食べ物食べてみない?
- 9月2,25日 みんなの好きな食べ物、なーに?
- 10月22,31日 ドキドキワクワク! 動物園へ行こう!
食べてるところ、見せて!

何が必要？

<環境デザイン・準備物・環境設定>

- カブトムシ、虫かご、土、図鑑
- 餌（ゼリー、人参、小松菜）
- カメラ（記録用）、紙、シート①②③
- ペン、バス、iPad、プロジェクター、動物園、水族館

実践記録

<活動内容>

①生き物ってなに食べるの!?

【2025年6月18日】【2025年6月20日】

なかなか自然に触れ合う機会が少ない中、毎年生き物を寄付してもらい飼育する楽しさが味わえる環境があり、今年度も保育室で飼育していたカブトムシが羽化し、幼虫の頃は土を食べて育ったカブトムシがゼリーを食べるようになった変化に気付きました。

ゼリーの匂いを嗅いで、「甘いにおいがする!」「これって何の匂いだろう?」とカブトムシのゼリーに興味津々でした。

5月28日にヒーローバスで駒場野公園に行き、自然観察舎でカメやすっぽんが餌を食べる様子を観察したことを思い出して、「あの時はゼリーじゃなかったよね」と食べているものの違いに気付いていました。

しばらくの間、どんなふうにかブトムシがゼリーを食べるのか観察をしました。



振り返り

観察を通して、カブトムシが約1日でゼリーを食べきっていることに気付いた子どもたち。毎朝登園して虫かごを覗き「もうないね〜!」と空になったゼリーカップを見つけて話していました。その中で「あれ?でもこっちは残ってるよ」とゼリーの減りのバラつきにも気付いていました。

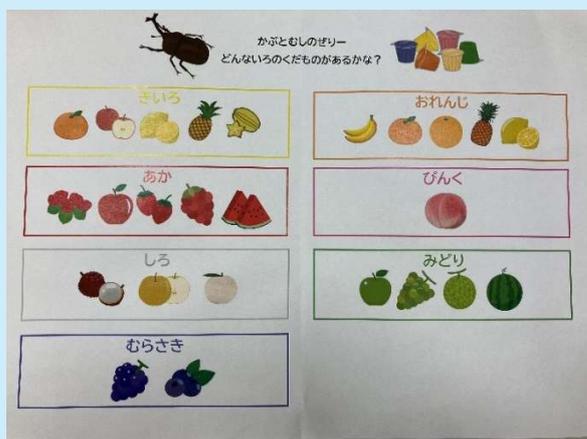
②このゼリー、なに味？

【2025年7月7日】

毎日の観察で、ゼリーの減りに偏りがあって全てのゼリーがなくなっているわけではないことに気付いていた子どもたち。

ゼリーの色によって味が違うのかな？違うとしたらどの色がおいしくてよく食べているんだろう？というところに関心を持って、日にちを分けてゼリーをあげ、減っていく様子を観察しました。

数日の観察でゼリーの減りが早いのは黄色、オレンジ色、赤色だとわかる。今度は「このゼリーって何味なんだろうね？」と色から連想されるフルーツを思い浮かべて想像しました。出し合った意見を表（※シート①）にして部屋に貼っておくと「この前スーパーで〇〇色のフルーツ見つけたよ」と発見を共有してくれていました。



※シート①

振り返り

ゼリーの減りの違いに気付いたり、味を予想したりと子どもたちからどんどん疑問が生まれ、探求心が感じられました。

味の意見を表にしたことで何の意見が出ていたか確認がしやすく、家庭で保護者との関わりの中でもゼリーの味探しがコミュニケーションの一つになっている様子が見られました。「ライチ」や「スターフルーツ」など馴染みの少なそうな意見も出て、子どもたちが経験を思い返すきっかけにもなっていたようでした。

フルーツの次は「じゃあ野菜だったらどうだろう？」と野菜にも例えてみていました。

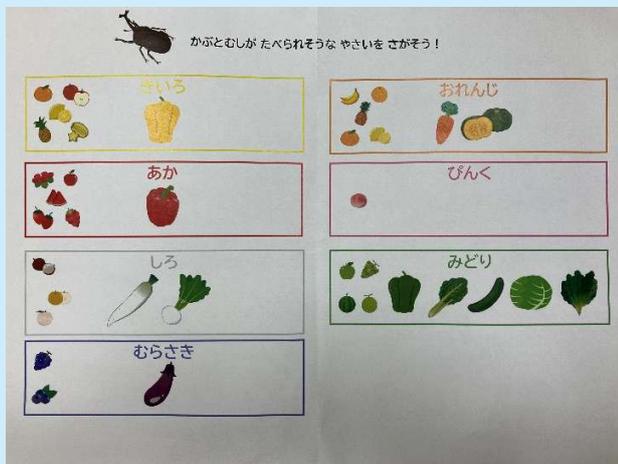
③ぼくたちと同じ食べ物、食べてみない？

【2025年8月28日】

7月は黄色やオレンジの色のゼリーの減りが良く、白や緑の色が残りやすいことに気付いた子どもたち。

各色のゼリーがどんな味かを身近な果物を挙げた後は「じゃあ野菜に例えたらどうだろう？」という疑問を持ち、再び表（※シート②）にして考えてみました。

この野菜に例えた表を作ってみた活動の中で、実際人間が食べている食べ物をあげても食べるのかな？と試してみることになり、ゼリーでよく食べるオレンジ色の「人参」と進みがゆっくりだった緑の「小松菜」を給食室からもらってあげてみることになりました。



※シート②



振り返り

フルーツをイメージした後だったため、野菜のイメージがしやすかったようでスラスラと意見が出る様子が見られました。この活動を通して、給食で出た野菜を目にし「これは〇〇色だね」と話して表（※シート②）に意見を追加していました。この流れから「あげてみたら食べるかな？」という興味に繋がりました。

小松菜も人参も生のままあげると進みがよくなく、「なんで食べないんだろう？」「好きじゃないのかな？」「硬いのかな？」という様々な気付きにも繋がりました。

数日後、給食で温野菜として出た人参を再びあげてみると少し食べていて「やっぱり食べにくかったんだね」と観察を楽しんでいました。



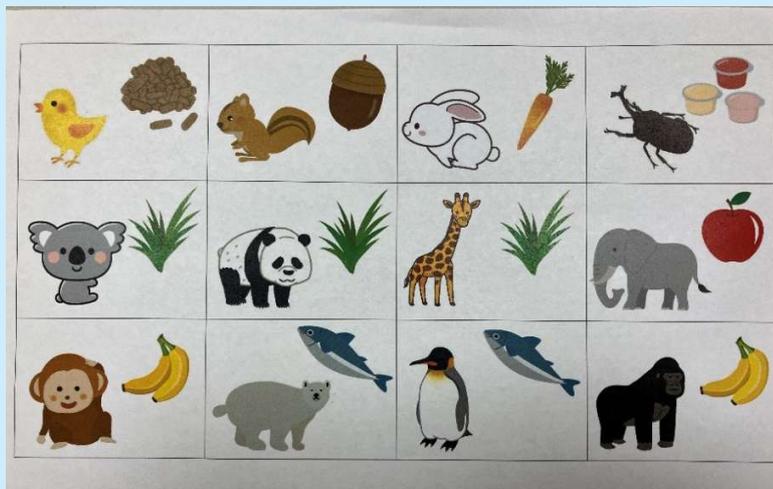
④みんなの好きな食べ物、なーに？

【2025年9月2日】

カブトムシに野菜をあげた翌日、子どもたちの会話から「そういえば人参ってうさぎさんが好きだけど、カブトムシも食べてたね。他の生き物って何を食べるのかな？」という疑問が生まれました。

すると「あっ！僕の家のカメは〇〇を食べるよ」「私の家の犬はペットフードとお野菜とか食べるよ」と子どもたちの身近な生き物の食べているものの意見を交換し合いました。

そこでまた表（※シート③）を作って思いつく動物の名前を挙げ、何を食べそうか予想する時間をつくりました。



※シート③

【2025年9月25日】

表（※シート③）を作って部屋に貼ることで、子どもたちが図鑑を広げて「先生、きりんは高いところの葉っぱを食べるって」と発見した情報を保育者に知らせたり「ペンギンは水の中にいるから魚食べるかな～」と生息する場所によって食べるものを予想していました。

図鑑や想像だけでなく、「テレビでカバがスイカ食べてるの見たよ」と印象的だった場面を知らせてくれる姿も見られました。

たくさんの動物を思い浮かべる中で、子どもたちから「食べているところ見てみたいね」という意見が出るようになりました。その願いが叶う方法があるかどうか動物のたくさんいる場所を思い出し、「動物園に行ってみよう！」という目的を見つけました。

振り返り

カブトムシに野菜をあげたことがきっかけで「他の生き物はどうだろう？」という疑問が子どもたちから生まれ、部屋に図鑑を置いておくに興味を持って広げて食べているページがないか探す姿が見られました。子どもたちが興味を持ったことを進んで探求する様子が見られて発見を共有することを楽しんでいました。

実際に見てみたいという意見から動物のいる場所はどこかを考え、「動物園に行ってみよう！」という思いにつながったと思います。

⑤ドキドキワクワク！動物園へ行こう！

【2025年10月22日】

保育者が実際に下見に行った動物園や水族館での写真を見せ、何を食べているか少しでも視覚的に伝えてより想像が膨らむようにしてみました。

「えー！バナナじゃなくて葉っぱ！？」と猿のイメージとは違ったものを食べている写真を見て、「じゃあ他の動物は何食べるのかな…？」といままでの予想が違うかもしれないという疑問を持ち「早く行って見てみたいね！」と話していました。

動物園に行きたい希望はあるものの、雨天時は別の場所に行くことになることを伝えると「水族館も楽しそうだね！」と楽しみにしていました。



振り返り

時間をかけて考察していた動物たちの食べるものを実際に写真で見えることで、より動物の食事シーンのイメージが湧いているようでした。水族館の生き物たちの食べるものはなかなか想像がつかず、「魚だけど魚を食べるのかな？」「えっ？なんだろう？わかんないね」「見てみないとわかんないな～」と話す姿が見られました。

動物園水族館どちらに行っても、楽しんで生き物が何を食べているか観察できそうな様子が見られました。

⑥食べてるところ、見ーせて！

【2025年10月31日】

当日は雨天のためバスで水族館に行きました。
チンアナゴやペンギンの餌やりを見ることができて「ここの口から食べてるねー！」と食べる様子を大興奮で観察していた子どもたちでした。
特にチンアナゴの食べる瞬間が面白かったようで、長い間水槽を眺めて「こっちも見てみたいから交換しよう」と水槽全体のチンアナゴを観察していました。



振り返り

動物園よりも生き物が餌を食べる時間が自由ではないためなかなかたくさんの生き物の食事シーンは見られませんでした。その分1つひとつの観察に集中して長い間興味を持っている様子が見られました。

振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

カブトムシを飼育しているところから生き物が“食べるもの”に関心がいき、どんどん子どもたちが疑問を探求したり発見を共有したりしていく様子に子どもの想像力や関心は予想のつかない方向まで伸びていくのだなと感じました。今まで自分の話を一方的に話すことが多かった子どもたちも、友だちの意見を聞いて納得したり共感したりしてこの活動を通して仲が深まるきっかけにもなったと思います。

今回は水族館になったので、休日に家族で動物園へ行って動物の食べている様子を知らせてくれたり、もう1度水族館へ行って保護者に覚えた生き物の知識を知らせてたりして家族のコミュニケーションのきっかけにもなった活動でした。

活動を実施した月の職員会議で写真をプロジェクターに投影し、保育者同士で意見を共有して振り返りを行いました。また、保育園のHPで保護者にも子どもたちの様子を共有しました。